



10月号 令和4年9月30日発行

荏田小だより

横浜市都筑区荏田南町6-9-4番地 [TEL911-0149]
[http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/eda/]



「見える学力」と「見えない学力」 ～「生きる力」としての“認知能力と非認知能力”～

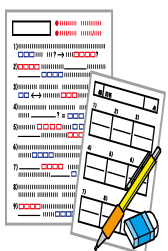
校長 伊藤 智樹

夏休みが明けて1か月が過ぎました。夏休み明けの感染拡大を心配する報道等もありましたが、保護者の皆様のご協力により大きな波にならずに現在推移しています。学校でも引き続き市のガイドラインにそった感染対策を行いながら教育活動を実施したいと考えます。

令和2年8月号で「根はみえねんだなあ～見えない学力を豊かに～」というタイトルで40年以上前に出版された本と相田みつをさんの詩の紹介をさせて頂きました。下記の文章はその再掲です。

「学力」という言葉は、「全国学力・学習状況調査」「学力を伸ばす」など教育界ではよく使われます。先ほどの著書には、学力はテストや通知表等によって示される「見える学力」と、それを支える「見えない学力」とがあると書かれています。しっかりした学力を身に付けるためには、土台ともいべき「見えない学力」を大きくしていくことが大切です。「見えない学力」とは、考察、判断、興味関心、探究心、想像力、直感力、バランス感覚など知識以外のすべてとも言えます。 【令和2年8月号 学校だより 巻頭言再掲】

最近教育界を中心に「非認知能力」という言葉がキーワードになっています。非認知能力とはノーベル経済学賞受賞者であるジェームズ・J・ヘックマン教授が2001年に提唱した概念です。「認知能力」とは、学力テストなどで計測できる能力のことです。「非認知能力」とは、認知能力以外の、数値化できない能力の総称です。自己管理能力・自己肯定感・コミュニケーション能力や問題解決力なども非認知能力です。上記の40年以上前の出版物に述べられていた「見える学力・見えない学力」も表現や記述法の違いはあるものの考え方は同じです。非認知能力については、平成10年学習指導要領の中でも「自ら学び自ら考える力」などで「生きる力」に関する記載があり、現学習指導要領では「生きる力」を更に発展させています。



認知能力

学力テストのように数値で測ることができるもの



非認知能力

自己実現の原動力となる能力
・積極性 ・意欲 ・自己肯定感
・自己管理能力 ・自制心 ・やり抜く力
・協調性 ・社交性 ・探究心など



『新学習指導要領リーフレット』（文部科学省）の冒頭には、「これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創っていきたい」と記載されています。「問いに対し解決策を自ら思考し、仲間と協調し積極的に挑んでいく力」等非認知能力の重要性を表現していると言えます。

感染症、世界情勢、環境問題、グローバル化等により現代社会は今以上に予測困難な時代になります。新たな課題が次々と出現する時代において、非認知能力は、今まで以上に強く求められます。学校における非認知能力の育成には、例えば学級目標やルールを話し合ったり、仲間と協力して学校行事の準備をしたりすることが大切であると言われています。学級の仲間と目標に向かって行動したり、人と関わって意見をまとめたりする活動が非認知能力に影響するからです。本校の田や畑に関する生産活動も同じです。



認知能力と非認知能力は別個に独立したものではなく相互に関係し切り離すことのできないものです。私たち教職員は、様々な教育活動を通して予測困難な時代に必要な「生きる力」の育成に努めていきたいと思えます。